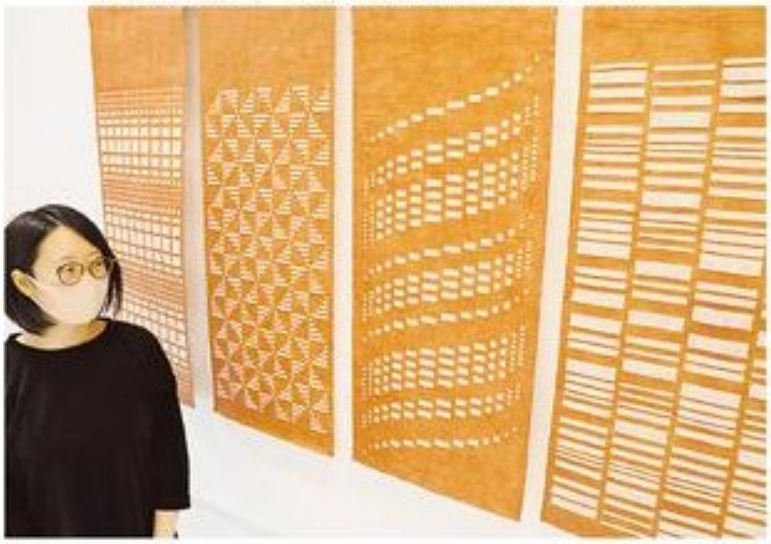
山陽新聞 2021年11月11日(金)　笠井（26面）

帆布を柿渋で染める

県立大４年の村上さん制作
矢掛・道の駅に展示

〝捨てられるモノ〟タペストリーに



帆布の柿渋染めタペストリーを制作した村上さん。デザインのパターンは左から格子、三角、Ｓ字、縞

矢掛町矢掛の道の駅「山陽道やかげ宿」に、県立大デザイン学部４年の村上加奈子さん(22)が制作した帆布の柿渋染めタペストリーがお目見えした。倉敷の帆布と矢掛の柿を原材料に、素朴な風合いに仕上がっており、近代的な雰囲気の駅舎に柔らかな風情を添えている。展示は14日まで。

大学でテキスタイル（生地）デザインやＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を研究する村上さんは、Ｂ反（ビーたん）帆布と呼ばれる生産工程の中で規格外になったものや、特産の干し柿生産の工程で摘果し廃棄される青い実といった〝捨てられるモノ〟に着目。干し柿産地の山ノ上地区で天然染料・柿渋の作り方を学び、帆布と組み合わせてインテリアに生まれ変わらせた。

作品は縦40センチ、横100センチ。帆布を柿渋で染め、たて糸を抜くことで模様を表現するシンプルなスタイル。テキスタイルデザインの伝統的な格子、縞など４パターンを作り、並べた。村上さんは「捨てられる運命だったものを組み合わせて、新たな可能性を模索した。実際にタペストリーを見ることで、作品の背景に興味を持ってほしい」としている。

同道の駅への展示は14日までだが、県立大は同日午前９時～午後３時、町内中心部で開催されるイベントに、柿渋染めに関するブースを設置する。（入野晶彦）

さんテジに動画

山陽新聞社提供